看護婦における疲労とうっかりミス: 仕事へのコミットメントの影響

岩崎祥一 (福島県立医科大学・医学部 心理学)

Fatigue and Accident in Nurse: Effect of Work Motivation.

Syoichi Iwasaki (Fukushima Medical University)

疲労とうっかりミスとの関係を調べる目的で、動機づけ (ここでは、仕事に対するコミットメントを意味する)、疲労、及びイギリスの Broadbent らが開発したうっかりミス傾向を調べる質問項目 25 項目 (Cognitive Failure Questionnaire: CFQ と略)を含む自記式アンケートを 435 名に実施した。そのうち、有効データは、393 名であった。

結果

1. 全体として疲労の程度と CFQ の得点の間には有意な正の相関($r = .318, p < .01$)が得られた。
2. 動機づけ得点の中央値により全体を 2 群に分け、それぞれについて疲労の程度と CFQ 得点との相関を求めたところ、低動機づけ群($r = .416, p < 0.01$)は、高動機づけ群($r = .178, p < 0.05$)に比べ高い相関係数を示した。

3. 全体で約 18% の人がうっかりミスの自由記述欄に何らかのミスの体験を記入していたが、高動機づけ群では、記入のある人は、ない人に比べ、有意に CFQ 得点が高かった。低動機づけ群ではそうした有意差は見られなかった。

考察

この結果は、疲労がうっかりミスの増加を招くこと、動機づけの高低により疲労のうっかりミスに対する影響の出方に違いがあること、また、動機づけの高い人は、正直に自己のミスやひやりハッと体験について報告する傾向があることを示している。

こうした結果は、医療事故を防止するという観点からもまた労働者の健康を守るという点からも疲労を防ぐ手だてが重要なことを示唆している。

血圧測定時の看護婦の眼球運動特性

○斎藤 真 (愛知みずほ大学)、村本淳子 (三重県立看護大学)、金澤トシ子 (済生会横浜市南部病院)、澤井映美 (東京都済生会中央病院)、鈴木玲子 (東京女子医科大学)、國澤尚子 (三重県立看護大学)、岡本恵里 (東京女子医科大学)

Characteristics of eye movement of nurses while measuring blood pressure

Shin Saito (Aichi Mizuho Coll.), Junko Muramoto (Mie Pref. Coll.), Toshiko Kanazawa (Saiseikai Yokohama-shi Nanbu Hospital), Eimi Sawai (Tokyo-to Saiseikai Central Hospital), Reiko Suzuki (Tokyo Women's Med. Univ.), Naoko Kunisawa (Mie Pref. Coll.), Eri Okamoto (Tokyo Women's Med. Univ.)

1. はじめに

本研究は、血圧測定時の看護婦の眼球運動と動作の特性から効果的な看護技術教育に応用しようとするものである。特に今回は、熟練看護婦の視覚情報の取り込み方と動作の特徴を明らかにすることを目的とした。

2. 実験方法

被験者は、平均臨床経験 6 年の看護婦 4 名で、座位にて健康成人の血圧測定を行った。眼球運動はアイカメラ (NAC EMR-7) を使い、フレーム解析を行った。注視場所は、「患者の顔」、「マンシェット」、「血圧計」、「その他」の 4 領域、動作は 18 動作に分類した。

3. 結果

図 1 は、被験者が動作開始前に注視していた物とその時刻である。各 5 動作で、その動作を行う前にそれぞれに必要な物品を見ていたことが示された。

図 1 動作開始時における注視開始時刻の差 (n=4) (0sec が動作開始時刻)

4. 考察

以下の点が明らかとなった。注視割合は、測定や位置決めなどの動作内容により影響を受ける。また次の動作を予測し、円滑に遂行するために動作開始前に対象物を注視する傾向がある。視覚に依存しない動作では、手の触覚が視覚の代行をする。